

平成27年5月22日～24日

## 坊がつる讃歌に碑められた九重連山を歩く

知らないこと以外は何でも知っている、我こそものしり博士(ケペル先生)と豪語の隊員集合

先発テント泊の姉さんと本日の宿泊先法華院温泉山荘で合流



空路福岡から高速バスで長者原登山口から、『坊がつる』をししゃも、いやめざします。



地名に玖須(くず)、九重(このえ)、久住(くじゅう)とあり、読み方苦渋の選択

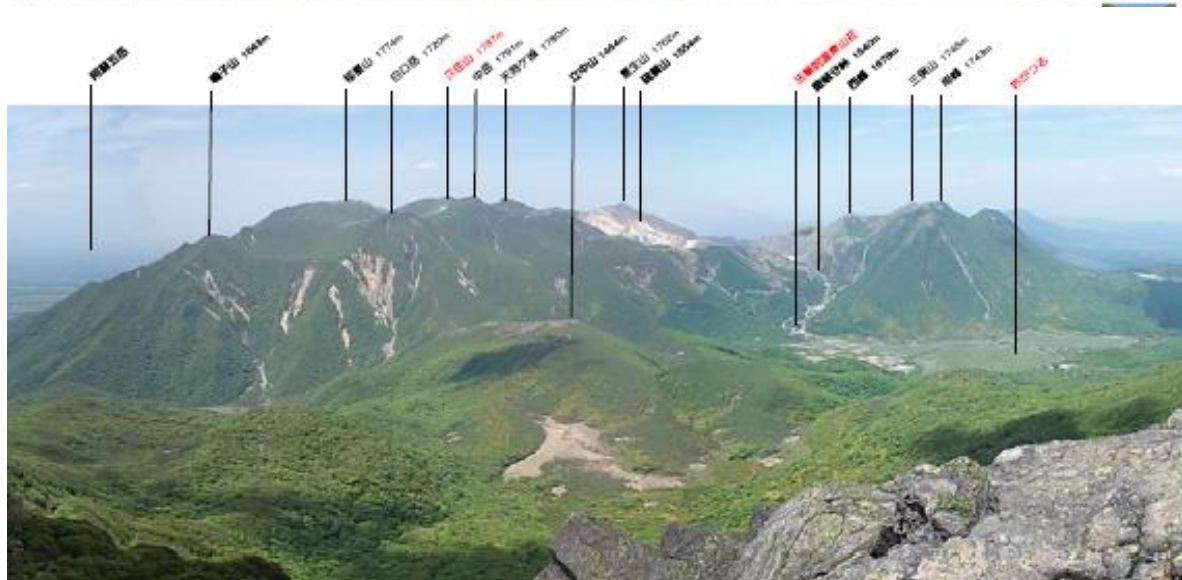




# 坊がつる賛歌

作詞／松本 健夫  
作曲／梅木 秀徳  
草野 一人  
竹山 仙史

- 一 人みな花に酔う時も  
残雪恋し山に入り  
涙を流す山男  
雪解ゆきぎの水に春を知る
- 二 石楠花（しきく）谷の三俣（さんま）また山  
花を散らしつ藪分けて  
湯沢（ゆざわ）に下る山男  
メランコリーを知るや君
- 三 ミヤマキリシマ咲き誇る  
山はピンクに大船（たいせん）の  
段原（だんばる）彷徨（さまよ）う山男  
花の情を知る者ぞ
- 四 四面山なる坊がつる  
夏はキャンプの火を囲み  
夜空を仰ぐ山男  
無我を悟るはこの時ぞ
- 五 深山（みやま）紅葉に初時雨（はつしぐれ）  
暮雨（くれあ）さめだきの水音（みおと）を  
佇（た）み聞くは山男  
ものあわれを知る頃ぞ
- 六 町の乙女（おんな）ら思いつつ  
尾根（おし）の処女（処女）雪（ゆき）立（た）てては  
久住（くすむ）に立つや山男  
浩然（こうぜん）の気（き）は云（い）がたし
- 七 白銀（しろがね）の峰（みね）思（おも）いつつ  
今宵（こんや）湯宿（ゆしゆく）に身を寄（よ）せて  
圓志（ゐし）に燃（も）ゆる山男  
夢（ゆめ）に久住（くすむ）の雪（ゆき）を蹴（け）る
- 八 出湯（いづゆ）の窓（まど）に夜霧（よきり）来て  
せせらぎに寝（ね）る山宿（やましゆく）に  
一夜（ひとよ）ひとを想（おも）う山男  
星（ほし）を仰（もち）ぎて明日（あした）を待つ
- 九 三俣（さんま）の尾根（おし）に霧（きり）飛（と）びて  
平治（へいぢ）に厚（あ）き雲（くも）は来（き）ぬ  
峰（みね）を仰（もち）ぎて山男  
今（いま）草原（くさの）の草（くさ）に伏（ふ）す



長者原からの岩場を抜け雨ヶ池、坊がつるに出ます

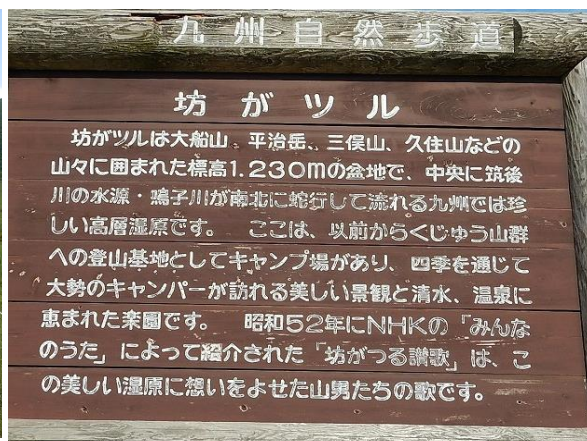


金曜なのに木道わたり、大人なのにじゃり道を行く





右手に棒、左にツルを持てと言われましたが(受けねえじゃないの)



ミヤマキリシマは今は1～三分咲、10日後に満開

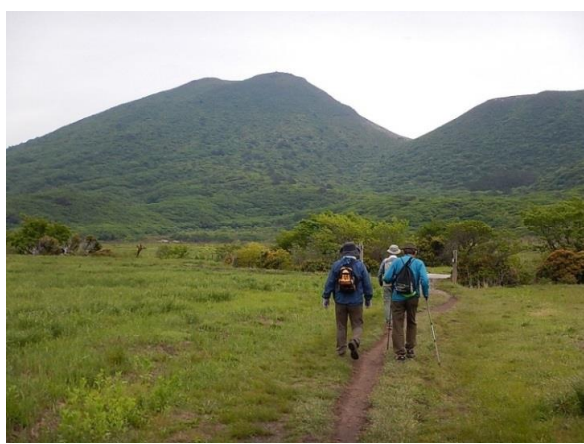


本日の宿泊先法華院山荘にて





2階の寢室から姉先生に朝5時30分撮影と手を振って見送られ大船山へ



360度パノラマ大船山頂上





法華院山荘で荷物を持って目指すは久住山(天気予報12時～雨)



前回神津島裏砂漠を彷彿させる自然の世界に茫然



雨となりました、インディアンと天気予報うそつかない、



『姉さんお先にどうぞ』最初に昇って外された経験から私(深谷)ははしごは最後にのぼります





久住山頂上は大船山頂上とパノラマ甲乙つけ難し



牧ノ戸登山口から竹田さん待つ熊本へ





竹田さん、10月お別れ会の旗との再会、感激もひとしおと旗



翌日は熊本城、水前寺公園を案内していただきました



上から『たけもん』『いえもん』『ふかもん』『ひでもん』そして下『ふるもん』嫌われ『あねもん』不在

